

こんにちは！

議会報告 No.2 / 平成 16 年 3 月定例議会 / H16.5.13

印西市議会議員 **ますだようこ** です

〒 270-1347 印西市内野 2-1-6-202 Tel&Fax 46-6809
URL : http://homepage3.nifty.com/kenclever/index.htm



3月議会の主な議案

2/25～3/25の1ヶ月間、今年最初の定例議会が開かれ、16年度当初予算案など32件の議案が審議されました。提出された議案は以下の通りです。すべて原案どおり可決（採択）されました。

- ① 15 年度一般会計&特別会計の補正予算 6 件
- ② 16 年度一般会計&特別会計の当初予算 6 件
- ③ 条例制定 5 件
 - * 国民健康保険 高額療養費貸付基金、出産費貸付基金の制定条例など
- ④ 条例の一部改正 5 件
 - * 個人情報保護条例、情報公開条例、老人福祉センターの設置及び管理に関する条例など
- ⑤ 財産の取得 3 件
 - * 草深の産直センター整備計画予定地（前議会での取下げ議案）、竹袋の雨水調整池整備計画予定地、西の原中学校特別教室棟
- ⑥ 字・区域の名称変更 1 件
 - * ニュータウン中央駅付近の6区画
- ⑦ 市道認定 1 件
 - * 小倉台1路線と戸神台の8路線
- ⑧ 委託契約の変更 1 件
 - * ごみ空気輸送施設の設置業務（都市公団との随意契約）の終了に伴う契約金額変更
- ⑨ 公用車の事故の損害賠償 1 件
- ⑩ 請願 1 件
- ⑪ 初議案（意見書の提出） 2 件

前議会の取下げ議案は賛成多数で可決

昨年12月議会で取下げとなった、⑤の産直センター用地の取得については、予定地内の土地利用計画が示され、再度今議会に提出されました。

計画案には、約150台分の駐車場をもつ「産直施設」のほか「堆肥化施設」「体験農場」「イベント広場」が描かれており、一日3,500人の来場を見込んでいると

の説明がありました。
あいかわらず総事業費は未定で、一日3,500人の根拠も曖昧であることなどから反対をしましたが、賛成多数で可決されました。

最後の「立替施行」西の原中特別教室棟

前記⑤の中の一つ「西の原中特別教室棟」は、都市基盤整備公団が建設した施設を2億909万円で市が取得するというものです。

通常、学校などの公益施設は、補助金と地方債、自前の財源を組み合わせる建設費を捻出しますが、ニュータウン内の公益施設については、自前の財源にあたる部分を公団が立て替えて建設してくれる「立替施行」という仕組みをずっととってきました。立て替えてもらったものは、20年かけてローンの支払いをしています。

さらに、その公団に返すお金と地方債の返済金を、これまた県が補填してくれるというのが、「公益的施設負担金」という制度です。つまり、ニュータウン内の公益施設の整備に、市はいっさい自前のお金を持ち出さなくてもよい仕組みになっていたわけです。

3年前に県が「せめて土地代だけでも市で負担してくれ」と言ってきたことから、当時の市議会が「約束違反」と反応し、この特別教室棟も、そのあおりを食うかたちで設計費の補正予算が否決されるという経緯を経て、今回ようやく整備されました。

公益的施設負担金の問題は、県と市ですべて協議されてきましたが、つい先ごろ、建設済みの施設については、最初の約束どおりに、いっさい棒引きなしで補填しつつづけてもらい、その代わりに、16年度以降は、県と公団のお世話にならずに、すべて市のお金で施設整備をしていくということで決着しました。

つまり、この西の原中の特別教室棟が印西市にとって最後の立替施行、最後の公益的施設負担金の対象となったわけです。

今後のニュータウン計画では、小学校2校、中学

校1校の整備が予定されていますが、施設建設が追いつかないほどの人口の急増はもはや考えがたいことから、市が主体的に関われるようになったことは評価できることだと思います。

印西は借金が多いと言われるけれど…

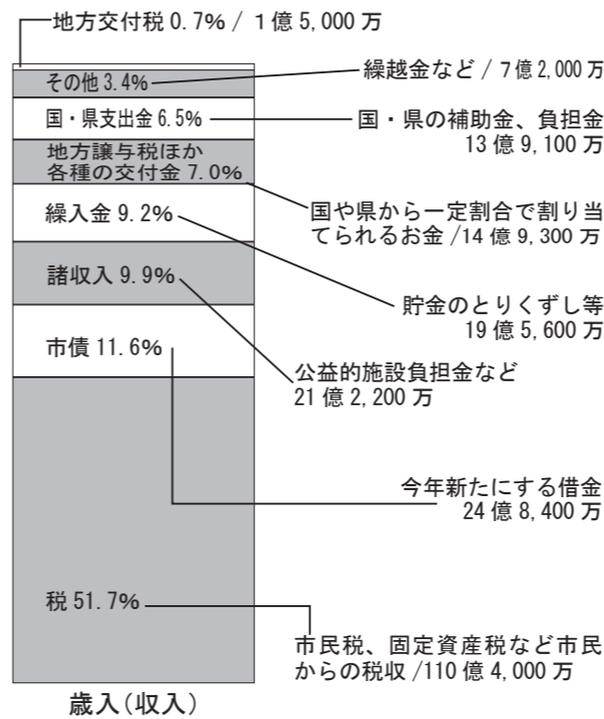
昨年の9/24の朝日新聞に、ある市民団体が作った県内自治体の「破産危機ランキング」が紹介されていました。それによると、県内で破産しそうな自治体第1位は千葉市、2位が本埜村、印旛村が4位、印西市は5位でした。合併協議中の4市村のうち3つまでがワースト5にランクインしてしまいました。

そんな記事を読めば、だれもが「印西市は破産寸前」と思うはずですが。

しかし、このランキングは、前述した「公益的施設負担金」が計算に入っていません。

現在、印西市の借金残高は、371億8,800万と発表されていますが、そのうち、公益的施設負担金の対象となるもの（ちゃんと補填されるもの）は、271億2,500万です。つまり、自前で返していかななくてはならない借金は、100億ちょっとということになります。

地方債は、施設の建設費など使途が限定されており、「お金がなくてつついり借りてしまった」というようなことは出来ません。仮に借金をしなくてもよい状態



であっても、「施設の整備費を将来の世代にも公平に負担してもらう」という考え方から、あえて借金をするというのもします。

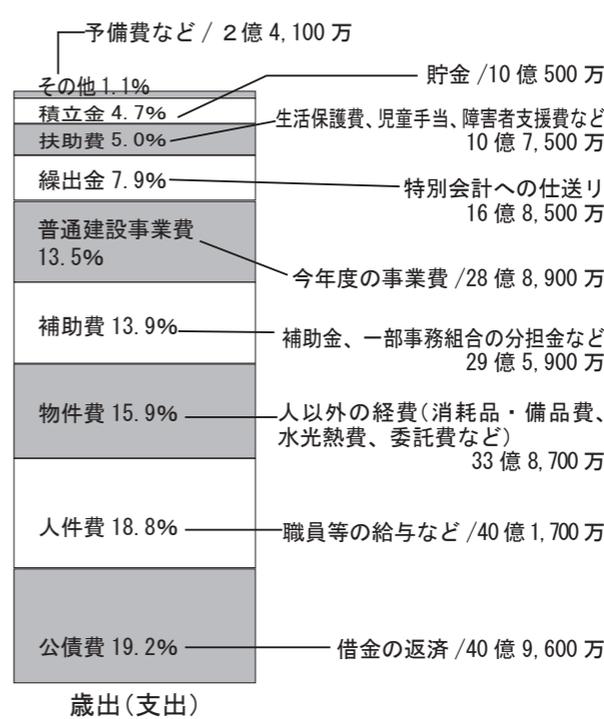
平成16年度の印西市の一般会計予算は213億。財政規模からみれば、100億の借金は適正の範囲です。破産どころか、むしろ良好といえる状態です。

16年度当初予算の中身

今議会のメインは、何といっても16年度当初予算。わざわざ「当初」とつけるのは、これから何度も出る「補正」予算に対してつけています。15年度は、「当初」194億5,000万円で、1年間で11回の「補正」が組まれ、年度末には200億5,690万円と、6億円増えていました。「当初」はなんとなく「とりあえず」という感じがしなくもありません。

三位一体の改革と呼ばれる地方交付税と補助金の削減で、県内でもほとんどの自治体が貯金をくずして予算を組んでいるという状況です。

ちなみに合併協議中の白井市では14億9,800万、印旛村3億3,700万、本埜村でも1億3,900万円の貯金をくずしています。印西市でも、グラフでは19億5,600万の貯金をくずしたことになっていますが、これは基金から基金へお金の移動を行ったために、帳簿上ふくらんでいるだけで、実質的には9億3,100万



ずしています（ちなみに前議会の報告に引き続き、現在の市の貯金の状況を予算書からひろって表にしてみました⇒）。

それにしても、地方交付税をほとんど見込まなくても、曲りなりにもきちんと予算が組めており、他市町村の状況を考えると、やはり「勝ち組」の感があります。緊縮財政にずっと（市民が）耐え忍んで、「やっとこれから……」というふうになっていけるのでしょうか。

歳出（支出）では、「借金の返済」が構成比で第1位となっています。これは、返済期限のきた「減税補

てん債」を借り換えて一括で返済するためです。

減税補てん債とは、国の減税の方針によって減った税金を補てんするためにした借金で、後々、全額を国が地方交付税でめんどろを見てくれることになっていたのですが、印西市の場合、前述のように交付税はほとんどもらえないと予想されるので、9割以上を自分で返していかななくてはならない借金となりました。この減税補てん債と同じになるであろうと思われるのが、「合併特例債」だと思います（もちろん合併をした場合のことです）。

表 各基金の動き

| 基金名 | 14年度末残高 | 15年度中の増減 | 16年度当初予算での増減 | 現在高 |
|-------------|---------------|--------------|----------------|---------------|
| 財政調整基金 | 4,190,392,000 | -85,149,000 | -1,516,060,000 | 2,589,183,000 |
| 減債基金 | 196,925,000 | 199,000 | 194,000 | 197,318,000 |
| 保健福祉基金 | 370,385,000 | -76,705,000 | -19,363,000 | 274,317,000 |
| 教育施設整備基金 | 6,689,000 | 600,007,000 | -225,053,000 | 381,643,000 |
| ふるさとづくり運営基金 | 570,435,000 | 0 | -171,891,000 | 398,544,000 |
| 都市計画事業基金 | 395,268,000 | 100,095,000 | 300,488,000 | 795,851,000 |
| 土地開発基金 | 509,463,000 | -409,463,000 | 0 | 100,000,000 |
| 庁舎等整備基金 | 418,960,000 | 424,000 | 200,413,000 | 619,797,000 |
| 鉄道施設整備基金 | 10,355,000 | 100,009,000 | 500,109,000 | 610,473,000 |
| 計 | 6,668,872,000 | 229,417,000 | -931,163,000 | 5,967,126,000 |

（単位：円）

一般質問しました。

* 市民と行政の「情報の共有化」をめざして

市が行う活動や考えが、十分に市民に提供され、説明されることは、市民参加のベースとなるものです。

しかし、合併の住民説明会で、市民から一番多く聞かれた声は、情報の不足というものでした。行政は「HPや広報で知らせている」と言い、市民は「知りたい

情報がない」と言います。このようなずれ違いは、「行政が知らせたい情報」＝「市民が知りたい情報」ではないことを物語っていますが、印西市では、そのギャップを埋める努力が積極的にされているとは感じられません。

| 質問&意見 | 市の回答 |
|---|---|
| ①現在の広報広聴のあり方について、どのように評価し、今後の課題は何だと認識しているか？ | ①広報の役割は、正しい行政情報をお知らせすること。広聴は、市民の要望や意見からニーズをつかみ、市政運営の反映させていくこと。広報紙は限界があるので、HPを充実させ、リアルタイムな情報提供に努めたい。 |
| ②昨年の「市民満足度調査」では、「広報紙の内容はたいして重要じゃない」と感じている市民が多いという結果だったのではないと思う。市民がどんな記事がおもしろいと思っているか、広報紙についての基礎的な調査をしたことがあるか？ | ②3年に1度行う「市民意識調査」の中に、「行政情報の入手方法」という項目があり、平成13年の調査では、広報紙が78%となっている。 |
| ③各課に「広報主任」がおかれているが、どこも若手職員があたりされている。もっと責任ある者が広報主任となって、市民にどのような情報を発信したらいいのか知恵を絞ってほしい。 | ③制度制定当初は「係長以上」だったが、徐々に今の状態になってしまった。何とか工夫をしなくてはならない状況だと認識している。 |
| ④広聴の主要事業の「市民ふれあい懇談会」の実績は、14年度1件、15年度0件という寒い状態。状況打開の具体的な戦略は？ | ④「ふれあい懇談会」は市民との大切な接点。アピールしていきたい。 |
| ⑤市が行う活動とは、「予算の執行」だ。現在、市民向けに分かりやすく書かれた予算説明書を配布する自治体が増えているが、取り入れる考えは？ | ⑤予算や財政の情報は広報紙でお知らせしている。今後は、HPや行政資料室を活用し、情報の提供に努めたい。 |
| ⑥市民が知りたいのは「リアルタイムな情報」ではなく実態。まずは行政が市民にボールを投げることが必要だ。再度、市民向け予算説明書を検討してほしい。 | ⑥年1回発行の「行政資料集」を工夫することで対応することも可能かと思うが、分厚くなるのがネックだ。 |

* 子どもを犯罪から守る取り組みについて

市内の男子児童が、中年男性に手で口をふさがれるなど、子どもをめぐる犯罪、不審者の出没が後を絶ちません。

千葉大の中村攻先生は、子どもの防犯対策を考えるとき、まず「子どもの目線で危険なところはどこか」というデータを集めることを提唱しています。例えば、

「子ども110番」のステッカーは、子どもたちが過去に「怖い目」にあったところにきちんと貼られているのでしょうか？ 看板設置なども大人の事情が優先していませんか？ 今の防犯対策は、大人の目線で作られたものになっていないのでしょうか？

| 質問&意見 | 市の回答 |
|--|--|
| ①子どもにとっての「怖いところ」は子どもが知っている。子ども自身に聞くという調査をしたことがあるか？ なければ、その必要性をどう考えるか？ | ①調査はしていない。必要性については、各校の状況を把握して対応していきたいと考えている。 |
| ②池田小の事件以来、学校の防犯対策は「不審者侵入」に特化しており、不審者侵入マニュアルは全校にあっても、登下校指導マニュアルは、3割にし整備されていない。危機管理に関することは、一定の方向性が必要。教育委員会として指導力を発揮できないか？ | ②各校で年間計画に基づき、さまざまな危機や危険に対応する訓練を実施している。しかし、予想を超えた事件が発生する状況を考え、さらに学校現場との連携を密にし、マニュアルの精度を高めていきたい。 |
| ③「自分の身を自分で守る」ことを効果的に教えるプログラムとしてCAPが注目され、市内でも7校で講演会やワークショップが行われている。受講者の感想などを把握しているか？ | ③CAPプログラムは平成13、14年の教委主催の研修で行った。それ以後市内でもPTAを中心に取り組むところが出てきた。保護者、教職員、子どもの感想は把握しており、おおむね「受講してよかった」「有意義であった」というものであった。 |
| ④CAPを好意的に受け止めた感想が多かったのなら、現状から一歩踏み込んで、授業の一環で取り組めないか。全国で初めて授業にCAPを取り入れたのは東京都葛飾区だが、狛江市など徐々に増えている。葛飾方式で印西に導入するとしたら、100万くらいの予算でできる。検討してほしい。 | ④CAPは防犯対策のソフト面として効果的という認識はしている。今後も活用を図っていきたい。 |

次の定例議会は、6月2日～16日の予定です。